

# 圓福寺報

圓福寺報 第四十八号  
 平成十九年一月一日発行  
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺  
 千葉市稲毛区穴川町三七五 TEL(二五二)九一八一  
 E-mail: enpukuji@come.bnet.co.jp  
 http://www.bnet.co.jp/enpukuji/



## 目次

年頭法話	
「看脚下」	2
第十一回四国あるき遍路の旅	4
「息切れ中高年の 禅童会お手伝い」	8
幕張町 雨海 宏明	
禅童会、子どもたちの感想文	9
お寺の情報公開ページ その十七	
穴川風土記「寺から半里」	11
園生町 熊倉 浩	
寺の事件簿	
「賽銭箱泥棒だーっ!」	14
宗達禅士、専門道場に入門。	15
平成十九年年間行事案内	16
「写経会」「ご詠歌」「土曜会」案内	17
——参加者募集中	
お寺と和尚の日録抄	18
平成十九年 年回表	19
第十二回四国あるき遍路のご案内	19
第24回花園会ゴルフ大会報告	19
圓福寺新年会のご案内	20

※表紙は、星久喜町 吉田  
 和子さんの作品です。

年頭法話  
かんきやつか  
「看脚下」



■ 四国へんろ満願の年

あけましておめでとうございませす。

今年は、平成十三年三月から歩き始めた「四国あるき遍路の旅」が二月の第十二回目で八十八番にたどり着きます。足掛け七年、風雨の中も、雪の中もありましたが、今年も無事故もなく最後まで歩きたいものです。一般的には、これで結願となりますが、圓福寺のあるき遍路は、今年の十一月に十番から一番までのお礼参りと、高野山への参拝、そして大本山妙心寺への参拝までを以って、満願ということにしたいと思っています。その後、四国遍路の第二

クルルを再スタートする予定でありますので、これから四国遍路をお考えの方は、ぜひご参加をお待ちしております。

■ 何かに頼って・・・

すでに何回も参加されている方もおいでになり、遍路道で迷いそうになっても道しるべの探し方がうまくなり、安心して歩けるよう



になりました。その上、何人ものグループで行っていますから、先を行く人の後姿が見えたり、山に入れば誰かの鈴の音が聞こえたりしています。それでも、先を歩く人との距離があいてしまうと、この道で間違いないだろうか、山中ではさつきも同じところを通ったのではないかなどと不安になります。そして、いつも、誰かの後姿や鈴の音、道しるべを頼りに歩かせていただいていることに気づきます。

■ 突然灯りが消えたら・・・

中国のえらい和尚さんのお話です。

ある夜、何人かの弟子たちと夜道を歩いていると、道を照らしていた灯りが消えてしまいました。現代とは違い、街灯もありません。道を照らしていたちようちんの灯りが消えたら、自分たちの周



りは漆黒の暗闇です。すると、えらいお坊さんが弟子たち

ちに言いました。「さあ、今、お前たちはどうするか、すぐに言ってみなさい。」と。

私たちは、知識や経験、地位や名誉、お金や財産などを、夜道の頼りとして生活をしていきます。それらが消えてなくなってしまうとき何を頼りにするのかという問いです。

すると、お弟子さんの一人が答えました。「看脚下」（かんきやつか）、自分の足元をよく見ます、と。

■ 看脚下

真っ暗になってしまつて、どうやったら先に進めるだろうか、今日はどこで寝るのだろうか、晩ご

飯はどうなるかななどと先のことを考えたり、あるいは慌てふためいて走り出したりしても転んでしまうのがおちです。

そこで、看脚下。まずは、自分の足元をよく見つめます、と。暗い闇でも、まずは目を凝らして足元を見れば、次第に目も慣れてきます。漆黒の闇だと思つていたのに目が慣れれば少しは見えるかもしれませぬ。そして、自分の歩幅で一步を踏み出せばいいのです。

■ 亥歳こそ生きるヒント

市原別院の土地に、いのししが二頭飼育されています。一昨年、さつまいも畑を荒らしていたいのししに手を焼いたので、飼育を始めたらしいのししがなくなり助かりました。このいのししは、人が近づくと慌てて小屋の中を駆け回ります。いのししは臆病者ですから、近づいた人がちよつとでも動

くとすぐに走り出して、狭い小屋の壁にぶつかつたり、おたがいにぶつかつたりします。

今年亥歳。どんな年になるのかは誰もわかりませんが、良き年にと誰もが願います。それでも、今まで自分が頼りにしていたもの、あつて当たり前と思つていたものが急になくなつてしまうことがあるかもしれませぬ。そのとき、猪突猛進とばかり暗闇を突つ走るのでなく、まずは「看脚下」と自分の足元を見つめて行きたいものです。





# 第11回四国あるき遍路の旅

平成18年11月23日（木）～25日（土）

76番金蔵寺（善通寺市）から

83番一宮寺（高松市）

総歩行距離 約51km

参加者 21名



へんろ道から見えたまめき富士

### ◇◇◇ 今回の旅のポイント

- ① 道中すべて歩きだったこと。
- ② 昼食はすべて「さめきうどん」だったこと。
- ③ 宿はすべて温泉だったこと。

期日	曜日	コース予定						食事・宿泊		
1	11月23日	木	7:30 羽田空港集合	8:25 羽田空港発	JAL1403便	9:45 高松空港着	9:55 高松空港発	空着リムジン	【歩<距離】約16.1km	
			10:40 JR琴平駅着	10:50 JR琴平駅発	しまんと2号	10:55 善通寺駅着	約1.6km	11:20 76番金蔵寺	昼食はさめきうどん「とみや」	
2	11月24日	金	11:50 金蔵寺発	約3.9km	「とみや」で昼食	13:15 77番道隆寺	13:45 道隆寺発	約3.5km	宿泊：瀬戸内荘（担当：坂本） 坂出市常盤町2-1-20 0877-46-2880	
			14:45 丸亀城見学	丸亀城発	約3.5km	78番郷照寺	郷照寺発	約3.6km		
3	11月25日	土	17:45 「瀬戸内荘」着	※丸亀城は休憩に立ち寄ったついでに見学できればと考えています。 時間的に余裕がなくなれば、省略させていただくこともあります。						【歩<距離】約18.4km
			8:00 旅館発	約4.5km	9:15 79番高照院	高照院発	約6.9km	11:45 80番国分寺	昼食は道中にて	宿泊：坂出簡易保険保養センター 坂出市高屋町2048-91 0877-47-0531
3	11月25日	土	12:15 国分寺発	門前で昼食	16:45 坂出かんぽ保養センター	13:00 出発	約7km（少し山）	16:00 81番白峯寺	白峯寺発	
			起床	朝食	坂出かんぽ発	約5m（山道）	10:30 82番根来寺	根来寺発	16:14 一宮ハズ停発	昼食は道中にて
			約11.9km	途中、鬼無崎前で昼食予定	15:00 83番一宮寺	一宮寺発	19:15 羽田空港着	到着後、解散。		



それでも、札所に横付けするのは憚られ、最寄の金蔵寺駅に下ろしても良かった。いよいよ歩き遍路のはじまりである。

飛行機の到着時間が遅れたため、空港からタクシー分乗にて、最初の札所「金蔵寺」まで行くことにした。今までは公共交通機関のみを利用して、長距離のところを移動してきているので、非常に気が引ける。しかし、計算してみると、空港リムジンとJRを乗り継いでいく運賃と、タクシー分乗の乗車料金では、タクシーの方が安いのである。

みを取れば、土日とあわせて四連休になるのである。しかし、よくよく考えると、四日間歩き通すのは私たちの脚力・体力・気力から考えると無謀だと気づき、結局いつもどおり二泊三日に落ち着いた。

第十一回四国あるき遍路の計画にあたり、十一月の連休をかけて三泊四日で行こうという意見があり、出発は二十三日（木）の祝日となった。次の金曜日に休

■ さぬきはう  
どんぬきには語  
られず

本堂と大師堂

で般若心経を詠んで、今回最初のお参りを済ませると、はや昼時。住職と思しき人に尋ねると、「お寺の裏



のうどんやさんがうまいよ。」と言われ、さぬきの人の言うことを聞いて、その店に行った。

金蔵寺さんに教えていただいたうどんやさんは、「香の香」という店だった。香川の香りということ、香の香」と名づけたという。ちょうど昼時、二十一名の団体が入って大丈夫だろうかと思うが、うどんは日本のファーストフード、カウンターで注文をすると程なく釜上げうどんが運ばれてくる。テーブルの上の、ねぎやしよすが、ごまなどの薬味をたっぷりいれ、ゆでたてのうどんをすすると、もっちりとしたうどんが身体を温めて

くれた。どんぶりに残ったゆで汁も、そば湯に引けをとらないほどうまい。「香の香」の名前どおり、小麦粉の香りまで味わうことが出来た。

■ 七十七番道隆寺へ

金蔵寺から七十七番道隆寺へは、多度津方面に向かって、田畑の中を抜けて古い集落を通っていく。途中、右手後方に讃岐富士のきれいな山容が見える。

讃岐富士が住宅の屋根に隠れて見えなくなり、田の中を右折してアパートの間の道を行くと、道隆寺の正面の道へと出た。参道らしからぬ殺風景な集落の中の道である。それでも、正面に構える立派な仁王門が札所であることを教えてくれる。

十一月も末になると、遍路の姿はめっきりと減るようで、今にも降り出しそうな曇天とあいまって、わびしい感じがする。お参りしている周囲を札所の職員らしき人が、お灯明壇を掃除したりする姿も、もう遍路の季節は終わりだと告げているように感じられた。

■ 雨の丸亀

お参りを終えてお寺の裏に出ると遍路道は東に向かい、丸亀市内を抜けて宇多津に入り、七十八番郷照寺まで約七キロほどである。

途中、日本一の石垣を誇る丸亀城にも立ち寄りたかったが、「山荘に泊るときめて日短」(高浜年尾)である。先を急ぐことにして、石垣はピルの間から眺めるだけにした。

丸亀の市内に入った頃から、雨が降り出した。もはやあるき遍路も十一回を数え、幾度となく雨に降られている一行にとっては、特に気になる雨でもなく、雨が降ったらカッパを着て歩くだけのことである。空をうらんだりしてもどうしようもないことは百も承知のこと、人間のちっぽけな力ではどうしようもないことと受け入れる、「諦める」とはこのことと身に染み付いたものである。

■ 拍子をそろえ、木魚打つなり

七十八番郷照寺は、八十八ヶ所中唯一の時宗のお寺である。ご詠歌にも「おどりはね、念仏申す道場寺、拍子をそろえ、鉦を打つなり」と、踊り念仏のことを詠っている。

私たち一行も、札所に着くたびに木魚にあわせて般若心経を諷経しているが、木魚があるときは木魚一打に漢字一字詠むだけの単純な詠み方なのに、なかなか合わないことがある。「お経は耳で詠め。」と言われる。木魚の音をよく聞きながら、そして一緒に詠む人たちの声を聞きながら詠まなければいけない。自分の詠みやすいリズムやスピード、音の高さも決まりはないが周りの人の音の高さと調和をはからなければならぬ。「拍子をそろえ、木魚打つなり」である。

全員のお経が一つになれば、同行二人と言わず全員の心も一つになるに違いない。これは、仏教の根本理念の一つ「南無帰依僧」に通じ、同行との合である「和合僧」に合致するのである。これは、遍路に限らず、人生という遍路にも通じるに違いない。

南無帰依仏

南無帰依法

南無帰依僧

郷照寺門前のさびれたアーケード街を抜け、坂出への峠道に差し掛かるとすでに夕暮れが迫って来ていた。今宵

の宿は、民営の国民宿舎「瀬戸内荘」である。雨に打たれた冷たい身体に温泉は何よりだろう。

#### ■ 遅かな山並み、遠い札所

二日目は昨日の雨がうそのように晴れ上がり、日ごろの行いのよさを誉め合いながら出発となった。

坂出の長い長いアーケード街を縦断し、七十九番高照院をお参りして参道を下ると、前方に五色台の山並みが望める。台地のような山容の左に白い建物が見える。どうやらあれが今日泊る予定のかんぼの宿のようである。八十一番白峯寺はそのすぐそばである。私たちは、その台地のよ

うな山の右の麓にある八十番国分寺をお参りし、台地の上まで登りつき、その後右から左へと縦走して札所までたどり着くことが手に取るようにわかる。今までの遍路で、これから行くルートが手に取るようにわかったことはなく、一步一步はた



かが知れているが、一日でずいぶんと歩ける人間の力もなかなかのものだと思いつつも、ずいぶんと先は長いことを思い知らされてしまった。

#### ■ 四国「禅へんろ道場」

国分寺跡から足を踏み出すと、のどかな住宅地を五色台に上る緩やかな登りとなる。振り返ると、平野の中に讃岐特有の形をした山とため池がいくつも見える。

道は次第に急になり、山際の墓地の脇をへんろ道が山中に向かっていく。今回はじめてのへんろ道らしいへんろ道であり、今回はじめての山道でもある。四国遍路がブームとはいえ、歩きのお遍路さんには合わない。最後の急な階段を登りきると、自動車道路に出て、山が見えなくなった。ようやく台地の上にたどり着いたようだ。

五色台の上に出てから、へんろ道は昼なお暗い森の中の道となる。天気は快晴であるが、うっそうとした木々の葉が覆いかぶさり、道には陽も



差し込まない。昨日の雨のせい、道は水を含んでおり、落葉を踏みつけるとわらじに水が沁みこんでくる。次第にわらじも水分を含んで重くなってしまふ。また、落葉は石ころも隠してしまい、とがった石をわらじの足で踏むと痛い。このわらじも何回目のあるき遍路だろう、次回は新しいものを作ろうかとも思う。

多少のアップダウンはあるものの、台地の上を縦走する感じでへんろ道は続く。途中、中学生と思われる集団とすれ違う。そういえば、この山中に「禅喝破道場」という青少年の研修所があるはずだ。もしかしたら、中学生たちはそこに泊る予定かもしれない。我々にとっては、四国中が「禅へんろ道場」である。

山中のへんろ道に、「十九丁」という三叉路がある。あとは一気に下ったところが白峯寺である。

■ **ころろと身体のお洗濯**

白峯寺から出ると、眼下に瀬戸内の海が開ける。よく見ると、船がぐぐつていく瀬戸大橋、その袂に坂出の街、町の向こうに昨晚の宿「瀬戸内荘」が

あるあたり、左に目をやると遠くに讃岐富士、その手前に七十九番高照院があるあたり、そして国分寺に向かつて歩いたへんろ道と俯瞰できる。二日目の朝から昼前ぐらいいまで歩いたところである。

宿について、少しすると讃岐富士の後ろに夕日が沈むサンセットショーのはじまりとなった。どの部屋からもサンセットビューが楽しめた。とりわけ、大浴場から裸で見た夕日は格別でここも身体も洗われた。

■ **「じやうー」**

八十二番根香寺への下り坂を降りてくると、にぎやかな声が聞こえる。近づくと、それが車の誘導のための無線の声だとわかる。根香寺への車道は狭く、車がすれ違えないので、境内と下の



駐車場とで車のやりとりをしなければいけないのだ。せっかくの山中の静かな札所が台無しである。その上、境内の駐車場は車が仁王さんにお尻を向けるように作られている。排気ガスを浴びた仁王さんは臭いと言わず、「におう！」と言うことだろう。

仁王門をくぐると、下りの石段があり、その先に本堂へ上がる石段が待ち構えている。紅葉したもみじが覆いかぶさり、落ち着いた佇まいである。

石段を上がった本堂は小ぶりだが、周りを回廊が囲んでいる。この薄暗い回廊の中に、本尊の観音様にちなんだように小さな観音様が祀ってある。本堂前の狭い庭に、我々の般若心経が響き渡った。

■ **満願近し**

根香寺から五色台を下り、鬼無を過ぎて平地へと出た。今回最後の札所八十三番一宮寺まで、高松郊外の住宅街を縫うように歩いた。一宮寺から、空港リムジンバスに乗って、高松空港に向かった。バスの中は、今回の遍路の満足感と、いよいよ次回は満願との思いで満ちていた。



# 圓福寺寺子會 第15回

## 「禪童會」

夏休み最初の週末、今年の禪童會のお手伝いは十一名のおじさん・おばさん（六十〜七十代です）から子供たちからはお爺さん、お婆さん。多過ぎるようですが小学校三年〜中学二年生相手ではパワーに差があり、人数でカバーする作戦です。

子供と体の柔らかさを競う清水さん、文章指導し漢字を質問され即答できず慌てる渡辺先生、一人で麵茹でを受け持ち尊敬される稲田さん、初めて頭を剃り「お坊さん」と子供に呼ばれ戸惑う石井さん、和尚に次いで睨みのきく幼稚園の石川先生、絵描き指導しながら孫に目の行く齋藤さん、などなど多士済々の方々。ひきかえ小生は一緒に坐禅をすること、声の大きさだけが取り柄でした。一日目の朝九時過ぎから各日程をお付き合いました。が、日々隠居の身には切れ目ないスケジュール



### 息切れ中高年の、禪童會お手伝い

平成十八年七月二十四日

裏座敷で、そつと一休み

雨海宏明

に少々息切れ気味。朝五時過ぎの早起きがひびき、二日目の十時の茶道体験（正座がきつい）はパス、裏座敷でこっそり午睡し、うどん作り迄に元氣を取り戻しました。特に肉体的に疲れる訳もないのですが、子供達のパワーに圧倒されてしまった様です。

今時の子供にとり、結跏趺坐けっかふざ、半跏趺坐はんかふざし、不動で坐禅したり、正座で無言で殆ど主菜のない禅寺院食をとることは「非日常」の極みとおもいます。「喋るな！」「動くな！」和尚の喝がとび、皆ビクツとし、姿勢が正されます。先生や親に素直に従わない子供が





多いと嘆きますが叱る見本がここにあるのでは・・・、怒るのではなく、愛情の裏づけのある叱咤が。

休憩時に雨でも広い本堂内を大声で駆け回り、授業時間に入ると集合の合図で静まる。和尚は繰り返し言う。「坐禅の効用は切替えと集中にあると。遊びも勉強も一生懸命に」

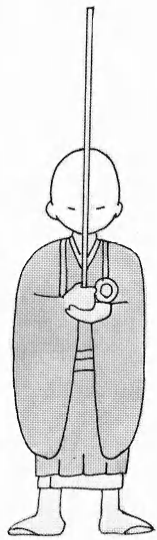
坐禅や食事はつらくとも仲間と一緒に遊び、眠る楽しさは又格別。小生も五十数年前、船橋の小学校で保田海岸の臨海学校に米持参で参加したことを思い出しました。

たった二日の体験でしたが、閉会式では姿勢正しく開会式と比べ整然と見えたのはひいき目か。小生も早く孫を参加させたいとつくづく思いました。まだ孫はおりませんが・・・。

### 坐禅して「食う・寝る・遊ぶ」でなにを感じたか？

### 初めての体験

生浜小4年 八木橋 麻友



私は、七月二十一日から、七月二十三日まで、禅童会に行きました。私がかよっていた幼稚園の隣の圓福寺に泊まりました。和尚さんは、幼稚園の園長先生です。みんながそろってから、坐禅をやりました。私は、「坐禅は、どのくらい、いたいのかなあ？」

と、思っていました。やってみてわかりました。「坐禅とは、気持ちをおちつかせ、何かに、集中するものかあ。」と、思いました。坐禅で、足が、とても、とても、ものすごく、いたくなります。けれども、みんなでやると、がんばろうと、思えました。私は今度、家で、坐禅をやってみたいと思います。気持ちをおちつかせ、何かを、やろうと、思えるからです。来年も、必ず来ます。



## 禅童会たのしかったよ

園生小4年 関口 真莉香

七月二十二日わたしは初めて禅童会に行きました。最初はどきどきしたけど、たくさん友だちができてとってもうれしかった。わたしが、一番つらかったなと思ったのは「坐禅」です。つらすぎてむずむずしたけど、ほかの人たちが一人せなかをたたかれる音ですごくびっくりしました。もし動いてせなかをたたかれたくない、だからじっとがまんしました。

うどん作りはたいへん。こねたりたいへんだっただけお昼はとってもおいしかったです。夜はみんなといっしょにねととってもうれしかったです。おきょうもむずかしかったです。自分では、とてもがんばりました。夜に思ったことは一日がすごく楽しかったことで

す。初めて行ったので禅童会ってこんなに楽しいんだなと心の中で思いました。お母さんたちにもこの一ぱく二かの禅童会のことをお話したいです。

## 禅童会の思い出

千葉大附属小4年 山口 祐佳

「よろしくお願いします。」  
げんかんにいた人にあいさつをして、これから、一泊二日の禅童会が、始まりました。

私が一番心に残っている事は、やはり「坐禅」です。足をじっとくんだまま、三十分は動けません。しばらくすると、上げている足のうらが、しびれてきます。三十分たつと、一回足をくずして良いのですが、またすべに、二回目の「坐禅」が始まるので、ゆっくり休むひまがありません。なので、一番つらい「坐禅」が始ま

ると、みんながためいきをついているように思います。だから、心に強く残っています。

次に心に残っている事は、食事です。ふだん、私はご飯の時間が、一番きらいなのですが、なぜか、禅童会のご飯だと、とてもおいしいので大好きです。だから、ご飯の時間を、いつもいつもとっても楽しみにしています。

三番目に心に残っている事は、友達と、たくさん楽しく遊んだ事です。最初に知っている人は、三人しかいなかったけど、みんなで遊んでいる内に、友達がたくさんできて、とても良い思い出となりました。ぜひ、またみんなといっしょに楽しく遊べる事ができたら、うれしいです。

一泊二日の禅童会で、とても楽しくたくさんさんの思い出が出来たと思いました。

# 穴川風土記

お寺の情報公開ページ その十七

## 寺から半里（その3）

くわが町かど探索く

園生町 熊倉 浩



地図を広げ圓福寺にコンパスをあてる。2kmは昔の里程でいう半里である。北は宮野木ジャンクション、南は千葉公園が範囲となる。東をたどるとみつわ台か。西は千葉街道で黒砂を包み込む。これから寺を発ち道筋の幾つかを探索したいと思う。

県道七十二号に沿って北上する



二号の「江戸道」を北に向うことにする（穴川 天 戸線）。京葉工高の前に馬頭観音がある。幾つか古い像は風化で崩れかろうじて弘化三年が残っている。中央に立つのは二基の大きな「出征軍馬慰霊碑」である。一つは日中戦争で命を落とした軍馬の、他は日清・日露戦争の軍馬の碑である。戦時農耕馬は徴用され軍馬として戦地に赴いた。日清・日露の役（えき）は知らず日中戦争・今次の大戦とも口きかぬ彼らが故国に帰還した例は聞かない。





穴園（あなぞの）歩道橋（五叉路）のすぐ右脇に出羽三山の大きな梵天塚がある。十二基の碑が四列に並

んでいるが、古い碑は風化して何も読めない。房総半島は石無し（良質の）県のせいでもあろうか、また多額な出費は許されない事情もあったに違いない。路傍の仏像や道標は粗悪な石材で数十年を経ずして風化しているのは惜しい限りである。やつと弘化・嘉永の年号と「都賀村園生」や「菌生」が判る。園生村もかつては都賀村の時代があったのである。

「園生（そののう）」の地名は古代に菓草の栽培を生業とする集団が住んでいたことによるという。船橋市の「菓園台」も同じだろう。彼らは「菓園生」とか「菌の部」と呼ばれていた。菌部さんや園辺さんの姓はこの末裔であろうか。それよりなんとと言っても「そののう」の響きが雅なのである。「そののう」の読みは何処にもあるが「そののう」はここだけである。

坂を下りるとそこは園生本村（前述）であり「草野水路」を渡り小中台中学を左にして坂を上る。その途中に「西街道塚」（中世の塚）がある。傍には青面金剛の庚申塔・如意輪観音・子安観音が並んでいる。近くに「西街道古墳」（前方後円墳）がある筈と探したが消滅したのか見当たらない。

園生小学校入口の広い交差点を東へ入り水道局園生浄水場に向か

う。宮長橋の手前を北にとると間もなく「甲大神（かぶとおかみ）」の森が見える。始めて



のとき武人か戦の神を祀ってあるかと思つたが、祭神は大己貴神（おおむなちのかみ）すなわち大国主命（おおくにのみこと）（大黒様）である。村内の八柱の神を集めて合祀する。創建は不明であるが燈籠の文政十年は第十一代將軍家斉（いえなり）の時代である。境内に四体の子安観音像をはじめ石尊神など小さな祠が沢山あるなかで出羽三山の梵天塚は大きい。立派な碑が林立という形容にふさわしく、昭和五十九年という真新しい碑が

「真言宗地藏院」の前に着いた。無住のお寺であったが境内をみると古い歴史が感じられた。その隣に「愛宕神社」



の森が見えた。標柱の名に釣られる大きなお宮と違って入ると石の祠が三柱並んでいた。この地を最初に開いた人々が村の発展と幸福を願って建てたと聞く。

輝いていた。ここらあたりが宮野木村の中心部である。集落内の複雑な道を辿って行くと「宮乃貴(みやのぎ)大神宮」



がある。防火・火伏(ひぶせ) せの神で古事記や日本書紀の冒頭に見える「火之迦具土神(ほのかぐづちのかみ)」である。火を司るので農家では神聖な竈(かまど) や囲炉裏に、また陶磁器(やきもの) の窯(かま) に祀られて陶芸家の信仰が篤い。京都の愛宕山から勧請した



と神社略記に見える。明治政府が全国的に実施した神社統合でこの神社もまた村を離れて他に

合祀された。ところが災害が多発して困ったので元に戻したら村内は平穏無事、以後災難はなくなつたという。初秋、曼珠沙華(まんじゅしゃげ) が一面に咲き乱れていた。

神社前の坂を県道に出る。道路公団のはからいか東関東道に沿った「宮野木緑地」には自然が溢れていた。中に入ると急速に汗がとんでいくのを覚えた。右奥、宮野木台の小公園脇に「白幡龍神(しらばたりゅうじん)」がある。千葉は龍神や弁才天といった水にまつわる神々も他所に比べると多い。(次号に続く。)



## 寺の事件簿

# 賽銭箱泥棒だーっ！

九月二十七日、宗達禅士が平林寺に掛搭する日でした。朝四時に朝食を済ませ、身支度を整えて出発する予定でした。

自分が掛搭するわけでもないのに、私も落ち着かなかったのです。午前三時ごろに目が覚めてしまい、寺務所で仕事をしていました。すると、三時半ごろ、本堂正面玄関の赤外線センサーがピロピロとなりました。湿度の関係などで誤作動することもあります。が、さては宗達禅士も落ち着かないと見えて、早め起きて本堂のお参りでもしているのだろうと思っていました。

ところが、朝食の時間になっても宗達禅士が来ないので、本堂に行つて見ると、玄関の戸が開け放たれています。もしや道場に行くのがいやで逃げたかなと一瞬思いました。何事が起きたのかわからず、恐る恐る近づいてみると、賽銭箱がありません。目を疑いました。お参りの方の浄財がたくさん(?)入っていて、一人でようやく持ち上げられる賽銭箱がないのです。さらに近づいてみると、廊下にガラスの破片が散らかっていました。ようやく、賽銭箱泥棒だと気づきました。先ほどピロピロ鳴ったセンサーは、泥棒の侵入を感知して鳴ったのです。宗達禅士の出かける日だったから、センサーの音を不審とも思わずにいたのです。

あの賽銭箱には、今までも悪の手が伸びて、何度も賽銭箱泥棒の被害にあっています。裏側の引き出しを開けて賽銭を持っていった奴、上の棧の間から針金を入れてお札を盗もうとした奴など、中身は被害にあっていますが、まさか箱ごと被害にあおうとは思っていませんでした。

ATMの機械ごと盗まれるような時代ですから、あれぐらいの賽銭箱を運び出すことはたやすいことなのでしょう。それにしても、樗の一枚板で作られた価値ある賽銭箱です。中身を返せとは言いませんから、あの賽銭箱だけは・・・墓地を捜したり、本堂の周りを捜したりしましたが、どこにも見当たりませんでした。泥棒に出くわさずに良かったです。ねと言われるだろうと思いつたから、警察に通報しました。でも、依然、賽銭箱は不明のままです。



# 宗達禪士、専門道場に入門。

平成十七年四月八日に、圓福寺にて剃髮式を行い、同年七月二十八日に本山で得度式をいたしました宗達禪士が、埼玉県野火止の平林寺専門道場に入門いたしました。

圓福寺で、禅寺の弟子としての学徒教育を受けながら、本山の安居会も経験いたしました。やはり専門の道場での修行が不可欠と本人も気づき、九月二十七日に平



林寺専門道場の門を叩きました。  
入門に際しては、本人の願心が確固たるものであるか試される

「庭詰め」と「旦過詰め」という、一般的に言う入門試験があります。

「庭詰め」は、道場の玄関で願書を提出して入門を請います。道場にはたくさんの雲水がいて、食べるものもままならないので、どうぞお引取りくださいと丁寧に断られます。それに対して、入門を願う者は許されるまでは動きませんとばかり、頭を板の間につけたままの姿勢で懇願しなければなりません。この「庭詰め」を丸二日間いただきます。

二日も玄関に居座られたのは、道場も困りますので、そんなにお気持ち固いのならと小部屋に案内されます。ここから「旦過詰め」が始まります。電気も明か

り取りもない小部屋に閉じ込められたまま、三日から五日の間、自分の気持ちかゆるぎないものか自ら見つ

めなおすとともに、やる気があるかどうか試されます。朝夕の勤行と、食事・お手洗いの時間だけ部屋から出ることを許されますが、それ以外は独房にも似たこの部屋で過ごさなければなりません。

この「旦過詰め」が終わると、それでは仮に入門を許しましょうということになります。ここまですべて、都合一週間の入門試験が終わるわけです。

その後、修行の厳しい期間が始まるのにあわせて、正式な入門が許可され、一応一人前の雲水となり、本格的な修行が始まります。



# 平成十九年 年間行事予定表

## 1月

【一月一日〜三日】

元朝まいり・新年修正会

仏教興隆・国家安泰・五穀豊穰・檀信徒各家の繁栄などを祈禱する法要をしています。

この修正会で祈禱した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。

【一月二十一日】

花園会新年会

寺報十六頁のご案内をご覧下



## 2月

【二月五日】

涅槃会

お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃図の掛け軸を掛けて法要をします。

【二月十七日〜十九日】

第十二回四国あるき遍路の旅

【三月十一日】

彼岸会法要

あらためてご案内を郵送いたします。

【三月十八日〜二十四日】

春彼岸

【三月三十一日〜四月二日】

冬の寺子屋、苗場スキー

## 3月

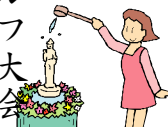
## 4月

【四月八日】  
降誕会

お釈迦様のお生まれになった日。「はなまつり」。

【五月十六日】

第二十五回花園会ゴルフ大会



【七月七日】

初盆・新入檀信徒施餓鬼会

この日は、初盆のほとけさまと、圓福寺と新しくご縁のできたほとけさまの施餓鬼会をいたします。あらためてご案内を差し上げます。

【七月八日】

山門大施餓鬼会

【七月十日〜十六日】

七月盆の棚経

みなさまのお宅に棚経にお伺いします。

【七月二十一日〜二十二日】

圓福寺寺子屋「禅童会」

子どもたちの坐禅会です。坐禅だけでなく、楽しいゲームやいろいろな体験もできます。たくさんさんの参加を待っています。

【八月十日〜十六日】

八月お盆の棚経

みなさまのお宅に棚経にお伺いします。

## 8月

## 10月

【八月二十五日】  
地藏盆

水子・人形・ペット供養  
子どもたちの楽しいお盆の行事です。夜店やゲーム大会など盛り上がります。  
地藏盆供養の法要も行います。



【十月五日】

達磨忌

禅宗初祖「達磨大師」のご命日。

【十月二十一日】

涅槃精舎毎歳法要

永代供養の方々の法要と、授戒会。

【十月二十七日〜二十九日】

妙心寺開山六五〇年遠忌部内合同団体参拝

【十一月十四日】

第二十六回花園会ゴルフ大会

【十一月二十二日〜二十五日】

第十三回四国あるき遍路の旅

【十二月八日】

成道会

お釈迦様がお悟りを開かれた日です。

【十二月三十一日】

年越しまいり

あまぎけ・年越しそば・福だるま・新春祈禱など、たくさんお参り下さい。



## 12月

## 11月

# 写経会

【前期期日】 【後期期日】

二月四日 七月一日  
 三月四日 八月五日  
 四月八日 九月二日  
 五月十三日 十月七日  
 六月三日 十一月四日

【時間】

午後一時半～三時半

【会費】

一期五回で、花園会員二千円  
 会員外 五千円

【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

【定員】

二十名

【申込】

お寺までご連絡ください。

【講師】

齊藤 加代子先生・住職



# 御詠歌

花園流ご詠歌の支部結成に向けて、練習をはじめていきます。ご興味のある方は、男女問わずお寺までお気軽にお問合せください。昨年からは、講師の先生をお招きし、わかりやすいご指導の下、初心者ばかりの男女混声で練習しています。見学歓迎、参加更に大歓迎です。

【期日】

毎月第二・第四木曜日

【時間】

午後四時～六時

【会費】

半年、て二千円

【講師】

山梨県 楽音寺住職  
 内藤 睦雄師

【定員】

たくさん 特に必要ななし。

【申込】

問合せは

お寺まで。



# 土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、お寺に集まり懇親・談笑する自由空間です。

【期日】

二月四日 春の俳句講座  
 三月二十一法話会  
 四月二十一日 市原(予定)  
 五月十九日 夏の俳句講座  
 六月十五日  
 十六日 歩く会(八海山)

【時間】

土曜日午後六時～

テーマイベントの後、懇親会

【会費】

花園会員 男性 二千円  
 女性 千円  
 花園会員外 男性 三千円  
 女性 千円

【申込】

お寺までご連絡ください。



平成十八年下期お寺と和尚の日記抄

7月18日	湯島麟祥院施餓鬼・法話
20日	下谷了源院施餓鬼・法話
22日～23日	第十五回圓福寺寺子屋「禅童会」
8月10日～16日	八月盆棚経
14日	佐倉報恩寺施餓鬼
15日	佐倉宝樹院施餓鬼
16日	佐倉円心寺施餓鬼
17日	四街道清久寺施餓鬼
18日	取手長禅寺施餓鬼・法話
24日	佐倉円通寺施餓鬼
26日	地藏盆
30日	社会保険センター、「写経」講座
9月5日	東京教区役員会 於恵比寿松泉寺
6日	社会保険センター、「写経」講座
20日	根岸円光寺秋彼岸法要・法話
27日	宗達禅士、平林寺専門道場掛塔
29日	平林寺拝塔
30日	幼稚園、入園説明会
10月3日～4日	平林寺金鳳会 於小湊 幼稚園「運動会」
8日	妙心寺開山無相大師六五〇年
11日	東京教区遠忌法要 於平林寺
22日	涅槃精舎毎歳法要・授戒会
25日	幼稚園、私学事業団監査

11月2日	幼稚園新入園児願書受付 来年度の新入園児として、3才児56名・4才児25名を受付しました。
8日	幼稚園、千葉市幼稚園協会教育研究会
15日	社会保険センター、「写経」講座
18日	市原別院収穫祭（土曜会）
23日～25日	第十一回四国あるき遍路の旅 （七十六番～八十三番まで）二十一名参加
29日	社会保険センター、「写経」講座
12月1日	第二十四回花園会ゴルフ大会 於久能CC
6日	社会保険センター、「写経」講座
16日	幼稚園「あさらい会」
16日	歳末ボランテラ・花園会忘年会
31日	年越し参り

▽毎週木曜日午後六時～ 木曜坐禅会  
坐禅三十分二回、終わって茶話。無料。初心者歓迎。

▽毎月第三土曜日午後六時～ 土曜会  
お寺とあなたを結ぶ自由空間。会費二千元。

▽毎月第二・第四木曜日午後四時～ご詠歌練習

▽毎月第一日曜日午後一時半～三時半 写経会  
「般若心経」の写経。見やすい大きさの字体です。  
正座できない人のために、イスとテーブルも用意。  
一期五回（事前申込制）。会費三千元。

# 平成十九年 年忌表

回数	亡くなった年
一周忌	平成十八年
三回忌	平成十七年
七回忌	平成十三年
十三回忌	平成七年
十七回忌	平成三年
二十三回忌	昭和六十年
二十七回忌	昭和五十六年
三十三回忌	昭和五十年
五十回忌	昭和三十三年

本堂法要後のお斎（お食事）に、書院をお使いください。法要後の移動もなく、お参りに来られた方にご不便をかけることなく参ります。お料理も、精進料理・懐石料理などご用意できます。お寺までお問合せください。

## 第12回 四国あるき遍路の旅



いよいよ八十八番にお参りする予定です。

募集人数 二十名  
旅 程（あくまで予定です。）

二月十七日（土）

飛行機で高松へ。高松市内までバスで移動し、屋島寺・八栗寺参拝。

志度駅前にて宿泊。

二月十八日（日）

志度寺・長尾寺を経て、八十八番大窪寺まで歩き。約二十キロ。大窪寺門前の遍路宿泊。

二月十九日（月）

大窪寺から山越えをして、徳島十番札所から一番札所に向かって、お礼参り。歩けるところまで歩いて、途中から徳島へ。徳島空港から帰路。

参加費 五、六万円ぐらいを予定しています。

# 花園会ゴルフ大会

【久能カントリークラブ、十二月一日】

第二十四回花園会ゴルフ大会の結果は、左の通りでした。次回からは、花園会ハンディが適用されての開催です。

今回のチャリティは、二万三千元。本山花園会のおかげさま献金に送らせていただきました。



		グロス	ハンディ	ネット
優勝	岡本 報頭	88	15.6	72.4
準優勝	塩月 高泰	97	22.8	74.2
3	向畑 鉄雄	83	8.4	74.6
4	福田 雅男	98	22.8	75.2
5	柴田 勝美	83	7.2	75.8
ベストグロス		向畑 鉄雄 柴田 勝美		83
ドラコン	福田 雅男	ニアピン		福田 雅男
	柴田 勝美			塩月 高泰
	福田 雅男			佐藤 とも子
	向畑 鉄雄			向畑 鉄雄



毎年恒例

圓福寺新年会のご案内

——毎年、和やかな楽しい新年会をしております。たくさんの方のみなさんのお越しをお待ちしております。



新年会参加資格

- 一、彼岸とお盆にしかお寺に来ない人。
- 一、お寺はかたくなるしい所だと思っっている人。
- 一、仏教や禅に興味のある人。
- 一、お酒の好きな人。
- 一、おいしいものが好きな人。
- 一、圓福寺のお守りが欲しい人。
- 一、当日時間のある人。
- 一、今年一年の無事を願う人。
- 一、一回出席してみても楽しかった人。

右の参加資格のうち、一つでも該当する人は参加することができます。



日時 一月二十一日(日)

午前十一時 新春ご祈祷

正午 新年懇親会

会費 三千元

(ご祈祷料、お守り、お膳・飲み物代を含みます。)

会費は当日受け付けます。

申込 お申し込みはお寺までご連絡下さい。

圓福寺花園会

- 河西達雄
- 福田和夫
- 平山 実
- 塩月高泰
- 菅野光夫
- 稲田陽英